

市政の窓



6月5日、令和5年6月吉野川市議会定例会開会日、原井市長は令和5年度のこれまでの成果と今後の市政運営方針についてその所信を表明し、市民の皆さんや市議会に理解と協力を求めました。要旨は次のとおりです。

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後の対応

これまで、治療やワクチン接種に献身的にご尽力賜りました医療関係者の皆さんをはじめ、本市の感染防止対策にご理解・ご協力を賜りました市民の皆さんおよび事業者の方々に對し、心から敬意を表し、感謝を申し上げます。

5類移行後の感染防止対策は、個人の判断によることが基本となりましたが、本市においては、去る5月2日に新型コロナウイルス感染症対策本部会議を開き、当面の間は、3密の回避や換気、市役所窓口における職員のマスク着用やアクリル板の設置など、基

本的な感染対策については、これまでと同様に継続することとしました。

今後も、市民の皆さんが新たな日常を取り戻していく中で、国・県などと一体となつて、市民の皆さんの生命と健康を守るため、あらゆる事態を想定しつつ、各種対策にしっかりと取り組んで参ります。

レッツ・クリーン 環境美化のお礼

5月14日、市内一斉清掃活動として、「レッツ・クリーン環境美化」を実施しました。コロナ禍の影響により、4年ぶりの実施でしたが、地元自治会やボランティアグルー

プをはじめ、民間企業や市内の各種団体などのご協力のもと、114団体、約3200人の皆さんに参加をいただき、約4トンのごみを回収しました。

市政の動き

●本市の財政見直し

未来を紡ぐ責任予算として編成した「令和5年度当初予算」編成後における本市の財政見直しでは、行財政改革の取組を引き続き着実に進め、身の丈に合った財政運営を継続することが前提ですが、当面の財政危機を突破することができたところです。しかしながら、人口減少や少子高齢化、公共施設の老朽化対策など、直面する諸課題が山積しており、今後も厳しい財政運営が続くことが想定されます。

将来にわたり持続可能な財政基盤の確立を目指すためには、メリハリをつけた市政運営を行うことが重要であると考えています。

●吉野川市第4次男女共同参画基本計画の策定

第4次計画は、令和6年度から令和10年度までの5年間で、基本期間とし、男女が互いを尊重し、個性と能力を十分に発揮して、あらゆる分野に参画できる社会の実現を目指すため、昨年度実施したアンケート調査結果をもとに、現在の社会情勢および市民の意識、価値観などに即したものを策定してまいります。

●マスタープランの改定

今回の改定は、既存計画が策定後10年を経過したことから、関連計画の動向や社会経済情勢の変化などを踏まえた見直しを行うもので、本年4月から施行された「立地適正化計画」との整合性および前計画以降に整備された日本フネン市民プラザ、鴨島駅前広場のまちづくり、SDGsとの関連性について変更を行っています。

かわの息吹を感じるまちづくり」に則り、活力や賑わいの中で、人々が躍動する持続可能なまちづくりを目指した施策を展開していきたいと考えています。

子育て・教育の満足度向上

本年4月1日、常にこどもの最善の利益を第一に考え、こどもに関する取り組みや政策が、我が国の社会の真ん中に据えられる「こどもまんなか社会」の実現を目指し、「こども家庭庁」が発足し、5月2日には、「こどもまんなか応援サポーター」プロジェクトが創設されました。

本市も、その趣旨に賛同し、5月26日、県内他市町村に先駆けて「こどもまんなか応援サポーター」として参画することを宣言しました。

まずは、こども基本法第11条に規定されております「こども施策に対するこどもなどの意見の反映」への取り組み

として、市内の小・中学生、高校生を対象に、「こんな国、こんな吉野川市になってほしい」などのテーマでの作文募集や、小学生から高校生までの子どもたちが一堂に会する「吉野川こどもDo(ド)まんなか会議」の開催を検討しています。(本号9ページ参照)

●使用済みおむつ保管用「ゴミ箱」等購入補助事業

本年1月、国において、保育所などにおける子どもへの使用済みおむつを、保護者が持ち帰ることなく、園内で処分することが推奨されました。

本市の公立園では、すべて園内で処分しておりますが、一部の私立園において、おむつの持ち帰りを行っていたことから、国の「感染症対策のための改修整備等事業補助金」を活用し、使用済みのおむつを保管する専用のごみ箱などの購入を補助するものとなります。

これにより、市内すべてのこども園などで園内処理が行われるとともに、保護者や

保育士などの負担軽減を図ることができ、加えて、施設内における住環境が向上し、教育・保育の質向上に寄与するものと期待するところであります。

●ICT教育の推進

本市では、国のGIGAスクール構想に基づき、すべての小中学校において、1人1台のタブレット端末などを活用した教育活動を展開しており、より学校のニーズに合ったサポートが図れるよう、本年度からICT支援員を1人増員し、支援体制を強化することとしました。

暮らし・福祉の満足度向上

●電力・ガス・食料品等価格
高騰重点支援給付金

本給付金は、国の地方創生臨時交付金を活用し、エネルギー・食料品価格などの物価高騰の負担感が大きい低所得世帯への負担の軽減を図るため、住民税非課税世帯などに対し、臨時的な措置として1世帯当たり3万円の給付金を

支給するものです。

また、本年1月以降、予期せぬ収入の減少などにより、住民税非課税世帯と同様の収入状況にある家計急変世帯についても支給対象とします。

●子育て世帯生活支援特別給付金

食費などの物価高騰に直面し、影響を特に受ける低所得の子育て世帯に対し、その実情を踏まえた生活の支援を行う観点から、国において「子育て世帯生活支援特別給付金」を支給することが決定されました。

具体的には、児童1人当たり一律5万円の特別給付金を支給するものです。

●高齢者等外出支援タクシー料金助成事業

昨年度の実績では、738人の方に助成券を交付し、そのうち、7割強となる545人の方に、交付した助成券の8割以上を利用いただきました。今年度も4月3日から、生

活あんしん課および川島・山川・美郷の各支所において利用申請の受付を開始しています。対象となる市民の皆さんには、ぜひ、利用いただければと思います。

●ごみ減量化に向けた新たな取組

本市では、「宝のごみ、もつたない。プロジェクト」と題し、「ウェブサイトを活用したリユース」と「羽毛布団のリサイクル」の2つの取り組みを実施していますが、これらに加え、新たな取り組みの実証実験を始めることとしました。

1つ目は、「飲料用紙パック」のリサイクルです。

飲料用紙パックは、他の古紙類と比較して品質も高く、トレットペーパーやティッシュペーパーなどにリサイクルされることから、貴重な森林資源である位置付け、ごみ減量化に繋がりたいと考えております。

2つ目は、「ペットボトルキャップ」のリサイクルです。

この度、回収したペットボトルキャップで、世界の子どもにワクチンを届ける支援活動に賛同し、本市も協力させていただきますこととしました。(本号9ページ参照)

●粗大ごみ自己搬入日の拡大

自己搬入による粗大ごみの受け入れについては、昨年度までは月2回としていたが、これに加え、川島町にある吉野川市リサイクルセンターにおいて、本年4月から、平日の午後1時から3時までを受け入れ可能として、拡充することとしました。

●各種イベントの開催状況

5月3日・4日、山川パンプパークで「森のマルシェ」が、5月21日には、「第26回・最後まで残った空海の道ウォーク」が4年振りに開催され、山道コースのみの開催となりましたが、468人の皆さんに参加いただきました。